

令和 7 年度全市一斉防災訓練の参加結果及び感想等（まとめ）

各公民館別（最終集計）

東児	5 団体 318 名	上山坂自主防災会、梶岡連合自治会自主防災会、番田自治会自主防災会、西田井地連合自治会自主防災会、胸上自治会自主防災会
山田	7 団体 314 名	原地区自治会自主防災会、上山田自主防災会、品之作自主防災会、沼地区自主防災会、大藪地区自主防災会、白石地区自治会自主防災会、福浦自主防災会
八浜	3 団体 117 名	東七区自主防災会、広木地区自主防災会、南広木自主防災会
荘内	12 団体 784 名	東高崎自治会防災本部、用吉区自主防災会、豊岡地区自主防災会、川田自治会自主防災会、広岡区自主防災会、永井地区自主防災会、滝区会自主防災会、長尾南地区自主防災会、尾越・四井手地区自主防災会、横田自治会自主防災会、宇藤木自主防災会、学校前区自主防災会
田井	7 団体 312 名	田井地区コミュニティ協議会、野々浜町内自主防災会、三軒屋中町内自主防災会、谷東町内自主防災会、岡殿団地自主防災会、三軒屋北町内自主防災会、福原町内会自主防災会
中央	3 団体 163 名	東小浦町内自主防災会、宇野ぼうさい会、藤井地区自主防災会
玉	1 団体 5 名	玉海岸地区町内自主防災会、
和田	1 団体 615 名	和田・御崎地区自主防災組織連合会
日比	3 団体 476 名	御崎シーサイド連合自治会自主防災会、向日比 1 丁目・深井団地自主防災会、渋川連合自治会
参加団体及び参加者 合計 42 団体 3,104 名		

※協力団体～玉野警察署、玉野市消防署、NTT ドコモビジネスソリューションズ株式会社、株式会社バカン、損保保険ジャパン株式会社、NPO 法人 V ネットおかやま

● 避難に要した時間（自宅から一次避難所等まで）平均 17 分 37 秒

（回答のあった 29 団体の平均所要時間）

● 訓練内容（避難訓練以外）

東児	防災資機材の点検、土のう作り訓練、A E D 取扱い訓練、非常食の試食
山田	A E D 取扱い訓練、非常用発電機の点検、炊き出し訓練
八浜	避難経路の確認、炊き出し訓練、防災資機材の点検・整備、非常発電機の点検
荘内	防災資機材の点検、非常食試食、救急講座、家族安否確認のための黄色いハンカチ作戦、各家庭での保存食の確認と補充、防火講座の開催
田井	防災資機材の点検、各家庭での防災グッズの点検
中央	避難所マネジメントシステムの実証実験、防災ジャパンダプロジェクト（体験型ワークショップ）、アマチュア無線による情報収集訓練、災害用トイレの使い方体験、避難経路の再確認
玉	防潮堤の開閉の確認
和田	防災セミナー（講師：備前県民局職員）、避難誘導訓練（玉野警察署員）、ペット同伴の避難訓練
日比	防災資機材の点検、家族安否確認のためのハンカチ作戦、シェイクアウト訓練 A E D 取扱い訓練、心肺蘇生法訓練

● 感想・意見等

東児	<p>○・今回ただ単に歩いて避難訓練をただけではなく、折りたたみカーを組み立て、若い人が引っ張って、1次避難所まで行ったことは良かった。</p> <p>・参加者に高齢者が多く、成人が少なかった。特に児童・生徒の参加が極端に少なかったのが、今後の課題。</p> <p>・携帯用メガホンが2器とも故障しており、困った。</p> <p>・避難中に隊の前後の連絡を密にするために、簡易の無線機があれば良いと思った。</p> <p>・今回の防災訓練の参加者から意見等を聞くとともに、来年の要望を確認した。</p> <p>○・各家庭で避難場所の確認、避難用具の補充、避難体験ができて良かった。</p> <p>・自治会として把握している人数は、25人だが、実際にはもっといると思う。</p> <p>・年に1度こうして確認、補充、体験することは、とても有意義だと思う。</p> <p>・来年度も訓練日を早めに期日の予告をお願いしたい。</p> <p>○・防災行政無線はなく、コミュニティハウスのマイクで避難したためか、ご近所どうして声を掛け合い集合して来たので、時間を要した。</p> <p>・マイク1箇所で放送が聞こえない家がかなりあり、現場で不満を言われた。</p> <p>・非常食が60個しか頂けず、全員には行き届けられなかった。</p>
----	--

	<p>○（訓練の感想）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地区で津波被害の可能生がある 4 地区の世帯に訓練の参加を呼びかけ、結果 4 地区 114 世帯のうち、津波被害を被る可能性がある 45 世帯の参加があった。今回の津波想定 2.8m を 11 月 16 日（満潮 8 時 58 分潮位 2.07m、津波到着時刻潮位 1.60m）で想定、津波到着時刻 11 時、海面から防波堤の上までの距離 2.00m、結果 4 地区のうち、いくつかの地区が 1 m 程度の波が押し寄せ、床上浸水被害が発生するシュミレーションとなった。 <p>実際の地震が発生し、地震被害があり、避難の準備をして、避難開始、避難場所に到着するには、訓練では 6 分～10 分で避難所へ到着しているが、実際に地震発生の場合、避難所到着までに 1 時間以上かかると思う。</p> <p>避難所を公会堂に設定にて非常に良かったと感じている。</p> <p>（参加して感じたこと）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の避難訓練では健常者の方のみの参加となった。障害のある方、施設に入られている方は参加されていないので、今後は、これらの方の避難にも対応を検討していく必要を感じている。 <p>（避難所として不備な点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公会堂入口～3 か所段差があり、現状では障害者の方の避難は困難。 ・ トイレ～車いすでも使えるよう改善が必要。 ・ 停電～災害時、停電が起こりがち、自家発電で対応する必要あり。 ・ 断水～避難所として機能しないので、近くのお宅の井戸水を使用可能にするよう検討する必要あり。 ・ 食料備蓄をどこまでするか。 <p>以上、改善実施が必要な課題が多くあるが、金銭面を考慮に入れ検討していく。</p>
山田	<p>○・ 今回炊き出し（ワカメおにぎりボタン汁）を行ったが、参加者が思った以上に少なかった。炊き出しに時間がかかったので、発電機、エンジンポンプの点検とグランドゴルフの体験ができた。また、待つ時間や食べる時に参加者での親睦が図れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 玉野市消防署分署署員 5 名により、避難の注意事項、消火訓練を行ってもらい、良かった。 ・ 子ども、若い人の参加がなかった。 ・ 炊き出しを各自治会栄養改善とグランドゴルフ仲間の女性が行ってくれて良かった。 <p>（課題・問題点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災訓練を回覧と各ゴミステーションに貼出ししたが、来年は何か良い方法を考えたい。 ・ 子ども、若い人の参加を増やすため何か方法を考えたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練時間が長かったので、トイレが必要だと思った。 ・山田地区は災害が少ない地域なので、防災の意識の向上が図れる良い訓練はないか、行政に指導して欲しい。 <p>○・参加者を増やそうと広報（回覧チラシ）を2回発行回覧し、今回、防災グッズ（百円均一商品を中心に）展示・体験を企画したが、参加者数は昨年度より減少した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加してくれた人は、関心を持って防災グッズを手にとって試したり、値段を質問したりして、防災意識を高めることができた。 <p>家族そろって避難したり、防災用品を入れたりリュックを背負って避難したり、車椅子で高齢者をサポートして避難してくる参加者もいたが、全体からすると、少数である。避難訓練に無関心または、重要視していない住民が多い。災害を自分事として捉え、危機意識を高める必要がある。課題を共有し、自治会（自主防災会）として事前打合せと役割をしっかりとっておけば良かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災学習会や専門家による応急手当、AEDの使い方学習などの講習会等、参加者が学んで良かったと思える企画も必要では？ <p>（問題点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災行政無線が聞こえにくい。サイレンは聞こえるが！ <p>○・毎回ですが、参加者から「防災サイレンの音が小さく、放送も聞こえない。」との意見がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートホン等を持っていない高齢者等要配慮者にとって、災害情報を得る方法は、玉野市の防災行政無線のサイレンに頼るところが大きいので、何か他の方法を考えてほしい。 ・この地区の全員がこの1カ所に避難するのではなく、それぞれの班でその地区に適した避難場所を選んで、そこで避難訓練をした方が良い。 <p>○・11月2日、午前8時に高知県沖（南海トラフ）で巨大地震が発生し、玉野市沿岸部で3メートルの津波が押し寄せるとい津波警報が発表になるとの想定で訓練をした。（自治会の緊急連絡体系に従って緊急連絡訓練を実施）</p> <p>（訓練の結果、明らかになった主な問題点及び改善案）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡網のグループ分けのバランスが悪いため、末端までの連絡に時間がかかる→グループ分けの見直し。 ・登録されている電話番号につながらないものが多かった→最適電話番号の登録見直し及び固定電話と携帯番号の併記にするか要検討。 ・伝達内容がうまく伝わらない→可能な限り、わかりやすい内容に簡略化して伝える。
八浜	<p>○・訓練に参加することによって、避難場所・避難経路の確認ができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し訓練に参加することで、落ち着いて行動することができる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時、高齢者や要介護者の対応が課題と思われる。 ○・昨年同様、想定1（南海トラフ地震）にて訓練を実施した。昨年は防災訓練の案内（回覧文）に若干不備があり、混乱した人もいたようだ。今年は、気をつけて、案内文を作ったが、参加者はまさかの13人だった。昨年23人よりは増えると思っていたが、少々落胆している。ちょうど、行楽時期と重なった等の要因はあるが、やはり防災意識が低いと思う。今後の課題は、防災意識の向上につきと思う。 ・訓練を繰り返し行うことによって、非常時に落ち着いて行動することができると思われる。 ・比較的若い世代が訓練に参加していたが、高齢者の避難をどうするのかないと危機感を持った。
荘内	<ul style="list-style-type: none"> ○・地区の高齢者率が高くなっている現状があり、訓練に参加することが重要になっている。隣人どうしの助け合い、自助、共助の点を話し合った。 ・助けの必要な人を事前に知らせて情報を共有した。結果は、車で避難場所に同乗したりして、大変良かった。 ・当日に放送設備の不備が分かり、この点も今後に生かされると思った。 ・消火器を使つての訓練も同時に行ったが、飲料水の確保や大切さを話し合った。 ・発電機等の点検も行いました。怪我なく無事に訓練ができ、良かった。 ○・当地区において、サイレンの音が聞こえなかった。 ・地区内の放送も聞こえなかったとの意見が多数であり、今後の課題として、取り組みます。 <p>（要望事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海拔表記の看板等は支給できないか。（公民館） ○・市が定めている避難所まで高齢者等は、徒歩での移動が困難であり、自動車等での移動となるが、駐車スペース及び誘導員の確保について検討が必要ではないか。 ○・障害物（災害発生時発生する）のない訓練なので、地元公民館（避難場所）へは10分程度で到着。山沿地の町内会であるため、津波想定はしておらず、集中豪雨を想定しているので、急傾斜地の住宅居住者は建物2階（高い場所）で就寝する。玉野市配布のハザードマップが役立っているとのことだった。また、非常食の配布について、担当者へお礼を伝言された。市民生活に直結する災害訓練の重要性を皆さん、感じていた。市民生活を守るため、危機管理課職員へのエールがあった。 ○・実際に人はどのように行動するのか、あえて1回きりの文書配布の案内で試してみた。ほぼ半数の世帯が参加した。 ○・手間のかからない防災訓練を目指したい。

田井	<ul style="list-style-type: none"> ○・当日は晴天で、参加者全員問題なく、避難できたが、実際の悪天候時に無事に避難できるか心配である。近所住民の顔合わせにもなり、良い機会ではある。 ○・1次避難場所が団地内のため、参加しやすいメリットがあるので、良かった。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習：スマホでの避難地点の標高の確認方法を共有した。 ○・9時の市のサイレンが聞こえにくい。（音量ではなく、何を言っているのか音が割れているため、聞き取りが難しい。） <ul style="list-style-type: none"> ・避難に要した時間が正確に測れない。（高齢者はサイレンが鳴る前に避難を開始してしまう。）→声がけで改善していきたい。 ・地元で決めている避難場所が今回で使用できなくなるため、次の候補場所を当日町内の方々（参加した方のみ）に周知したが、このような場合、もっと市としても対応と一緒に考えてほしいと感じた。次の候補地の選定も様々な課を渡り歩いたので、一括して聞いて考えてくれる窓口等があれば助かるし、これが町内会を若い世代が避ける原因となり得ると思った。市との連携が難しいのも問題の1つだと感じた。 ○・自主防災会発足後、初めての防災訓練であり、準備不足でもあったことから、今回は防災会役員のみを参加対象とした。 <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ家族同伴でという呼びかけをしており、3組が同伴で参加。 ・参加者の確認報告後、防災会長から市内の防災訓練の状況や今後の取り組み等について報告・質疑も行われ、9時25分頃解散した。 ・少人数、短時間の防災訓練ではあったが、今後の防災活動を進めていく上での大きなステップにはなったと実感している。 ○・防災行政無線について <p>聞こえなかった。サイレンは外では聞こえたが、内容は聞き取れなかった。屋内では地区によっては聞こえなかった。屋内ではサイレンは聞こえたが、TVを付けていたら、聞こえない。町内西エリアは、比較的聞こえたが、東へ行くほど、聞き取りにくいようである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者で避難され、かなり息切れていた方がいた。今後さらに高齢化が進むと、高台への避難は難しいと感じる。 ・各世帯の状況を町内で把握、個別対応をより明確化しなければいけない。 ○・イベントと重なっていたため、前回よりも参加者が少なかった。 <ul style="list-style-type: none"> ・9時のサイレンは、よく聞こえたが、放送のアナウンスは聞こえにくく、電車の音とかぶっていました。 ・シェイクアウト訓練を行うよう回覧したが、あまり実施してはいないようだったので、今後はもう少し多くの人にしてもらいたい。 ・避難場所への移動は、スムーズにできていたので、今後もこの調子で行いたい。
----	--

	<ul style="list-style-type: none"> ○・自主防災組織のない地区に対して、コミュニティ協議会主催のため、なかなか周知が難しい。 ・2年目の実施であったが、スムーズに1次避難所までの訓練ができ、継続して行う必要性を感じた。 ・今回の実施で、1次避難所の設定を再度検討しなければいけないという意見がでた町内があった。 ・集合場所が分かるよう目立つプラカードを準備している町内があった。 ・町内会長自ら防災ブックを準備し、説明を行っているところもあり、参加者は熱心に聞いていた。 ・市民センターや公共の場にA1版の防災マップを常に貼っておいてほしい。 ・高齢者が多い地区は、連絡網を作成し、生存確認をし合うという、防災避難訓練を実施し、最終者まで連絡網が回った。
中央	<ul style="list-style-type: none"> ○・防災行政無線のスピーカーの音が伝わらない。 ・安否確認等でマイナンバーカードをうまく活用できれば便利である。(家族同時に登録できれば良いと思う。) ・地域の交流が少ないので、関心を持ってもらえるよう、日頃の活動を通して意識を変えていく仕組みや、繋がりが広がるような仕組みが必要。 ・SDGsの理念を意識して、地域活動に参加する人を増やす努力が必要。 ○・実際は、事前報告などなく、災害は起こるものだが、防災訓練があると分かっている、町内に年配の方が多く、すぐに「避難」できないのが現実だと感じた。万が一の時は、分担して動ける人が一件一件、声がけして安全確保することも大切なことだと思う。 ・今回頂いた非常食は大変ありがたいが、食物アレルギーがあり、食べるのは難しい方がおられたので、どなたでも食べられるようなアレルギー対応の非常食があるといいなと思った。
日比	<ul style="list-style-type: none"> ○・南海トラフ大地震を想定し、午前9時の予報で自宅での1分間の身を守るシェイクアウト訓練を全世帯に呼びかけた。 ・その後、9時10分までに自治会・会員総参加の「タオルかけ安否確認訓練」を事前に呼びかけていた。9時10分過ぎから6ブロックの各役員が地区ごとに「我が家は無事を知らせるタオルかけ」の参加状況を見て回り、点検した結果、306軒のタオルかけ世帯を確認した。参加率は72.8%であった。「タオルかけ」は、タオルを門扉や玄関等の道路から見えるところに掲げる訓練である。 ○・模擬の訓練として午前10時までに、御崎公園へ参加を呼びかけ、170名が参加し、宝くじ助成金で購入した防災資機材を活用して、参加者に披露した。一連の訓練状況を報告し、日頃の地震対策、防災対策の必要性等を訴えた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・その後、解散時に保存食、保存水などを参加者に配布した。 ・「タオルかけ安否確認訓練」も御崎公園への避難訓練も昨年に比べ、参加者数は若干増加した。 <p>○・今年も 90 人の方が参加いただき、避難訓練を実施することができた。また、今年から事前に黄色い旗を全戸配布し、「黄色いハンカチ作戦」を実施した。避難する際に、多くの方が黄色い旗を掲げていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一方で、今回は「台風・高潮」を想定して実施したが、例年通りの避難場所を設定して実施した。地震災害時の避難場所と台風・高潮災害時の避難場所は分けて考え、避難ルートも改めて周知を図っていく必要があると思った。また、避難者の点呼や非常食等を参加者に配布する際も役割分担が明確でなく、時間がかかったのも、次回に向けた反省点である。 ・上記にも触れたが、地震発生時の避難手順と台風・高潮災害時の避難手順は違うので、主催する我々自身がこの認識に立って、もう少し学び直し、周知を図っていく必要があると思う。 ・全市一斉訓練に参加させていただき、ありがとうございました。 <p>○・避難訓練の後、コミュニティハウスで A E D（3 器）を使った心肺蘇生法、胸骨圧迫等について、訓練に参加した方に説明会を開催したが、近隣の方しか参加（21 人：除く消防分団員）されてなく、次回心肺蘇生法等の説明会開催の際は、開催日を検討する。</p>
--	--